

高温（夏期）・乾燥（夏期）対策のチェックリスト

露地果樹

【事前対策】

内容	チェック欄	備考
（果樹共通） かん水ができるほ場については、努めてかん水を行う。かん水は葉や果実に乾燥害の兆候が出る前に実施する。		
（果樹共通） ナギナタガヤ等による草生栽培、敷き藁等で乾燥を抑制する。		
（果樹共通） 草生園では除草、刈り取りを行い、水分競合を防ぐ。		

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。

高温（夏期）・乾燥（夏期）対策のチェックリスト

【事後対策】

内容	チェック欄	備考
（ミカン） かん水の目安は果実肥大が緩慢となり、葉色が薄れ葉巻が翌朝になっても完全に回復しなくなった時点である。（p F2.8 前後）		
（ミカン） かん水量は7日間隔で10～20mmとする。		
（キウイフルーツ） 梅雨明け後2週間程度晴天が続くようであれば、第1回目のかん水を行う。その後も晴天が続くようであれば、5～7日間隔で20～30mmかん水を行う。なお、多かん水による水ぶくれは品質、貯蔵性を低下させるので注意が必要。		
（ナシ） 梅雨明け後2週間程度晴天が続くようであれば、第1回目のかん水を行う。その後も晴天が続くようであれば、約10日間隔で15～20mmかん水を行う。なお、品質向上の面から収穫2週間前までにはかん水は中止する。		
（ブドウ） 果実肥大期に降雨が無い場合は、十分なかん水を継続的に行い、土壌水分を変化させないように留意する。また、着色始め時期以降に20日程度降雨が無い場合はかん水する。但し、急激なかん水は裂果を助長するので、土壌の状態、条件を考慮して慎重にかん水する。		
（ブドウ） 宅配便で送る場合、高温条件では、脱粒、軟果が起りやすいので注意する。		

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。